

平成23年度第1回帯広市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：平成23年5月27日（金）午前10時から

場 所：帯広市役所10階第2会議室

出 欠：出席委員 11名、事務局 4名、欠席者 0名

会議概要

1. 開会（10：00～）

木川会長挨拶

変更になった委員の紹介 十勝総合振興局 仁平委員

人事異動に伴う事務局の挨拶

2. 議事

報告事項（10：05～）

（1）平成22年度事業報告について 資料2、3

- ・事務局から、平成22年度事業報告のうち前回会議以降の事業報告および、実証実験路線の利用状況について報告

（2）平成22年度決算報告について 資料4

- ・事務局から、平成22年度収支決算について報告

（3）平成22年度監査報告について 資料5

- ・仁平委員より、協議会の会計処理が適正に行われ、問題がない旨報告

質疑応答（10：07～）

（木川会長）

実証実験路線利用状況について、3月末に無料おためし券やワンコインチケットの付いたバスマップを町内会の回覧板で配布したところ。4月はおためし券を利用して無料で乗っていただけの期間であったが、利用率が1.5%と厳しい状況にある。おためし券の利用状況について、十勝バス、拓殖バスから意見を聞きたい。

（長沢委員）

西地区縦循環バスは、もう少し利用が増加するものと期待していた。1便あたりの平均利用人数は昨年4月より今年4月の方が0.4名増えているが、おためし券を使った分だけ利用が増えているという事になっていないので、従来の利用者がおためし券で乗車しているという部分もあると思う。新規利用者について今回は見えて

こなかったので残念に思う。

(小森委員)

昨日分までの5月の利用者数を計算してみると、昨年324名に対して今年398名。増えてはいるが、おためし券が4月で226枚利用されているので、5月の数字がもう少しあがっていればPRの効果が出ているのかなという気がするが、厳しい状況だと思う。

(木川会長)

無料だからたくさん乗って欲しいと思うが、普段、車や自転車など他の交通手段を利用している方に、行動パターンを変えてバスに乗ってもらうという、行動に移してもらうことがいかに難しいか。今まで長い間バスの利用促進をしてきており、最後は乗っていただくという行為につなげるというのがカギになっているが、改めて難しさを感じている。このような状況でも利用促進を進めていき、路線を維持しながら、バスに乗っていただけるような状況につなげていきたい。

協議事項 (10:14~)

(1) 平成23年度事業計画(案)について 資料6

・事務局から、当初予定していた実証実験路線のバスマップ作成が実施できたため、高齢者向けバスマップ及びバス利用パンフレットの作成について提案

(2) 平成23年度収支予算(案)について 資料7

・事務局から、平成23年度の収支予算書について説明

質疑応答 (10:18~)

(長沢委員)

(バスマップを) 別々に2部作成するのか。

(事務局)

高齢者に特化したバスマップの作成が1つ。

パンフレットについては、若い方からお年寄りまで幅広い世代の方をターゲットとし、バスの基本的な乗り方や来年度改定を予定している高齢者バス券、高齢者の運転免許書返納制度でバスの割引を受けられる事などの情報を載せたいと考えている。

(木川会長)

他に質問がなければ、このように平成23年度の事業を進めさせていただく。

(3) 帯広市地域公共交通活性化協議会規約の改正について 資料 8

- ・事務局より、規約の改正点について説明

質疑応答 (10 : 24~)

(仁平委員)

組織名が変更になっているので、第3条の関係機関名等の“十勝支庁”を“十勝総合振興局”に変更してほしい。

(木川会長)

組織名の変更を加味し、今回改正をさせていただく。

意見交換 (10 : 25~)

(齋藤委員)

菊まつりの開催期間中に、会場まで路線バスの経路を延長することはできないか。菊まつりと路線バスの連動ができると住民サービスにつながるのでは。

(長沢委員)

菊まつり会場である中央公園へは、「NHK前」が最寄りの停留所で、多くの路線はこの停留所に停車するのでこちらを利用していただきたい。バス路線を会場まで直通で敷設するのは現実として難しい。まつり会場へのバスの乗り継ぎ方法を積極的に提供する必要があると思う。

(小森委員)

帯広市外から来られる方は、帯広駅で別の路線バスに乗り継いで会場へ向かう必要があり、会場までのバス運賃がさらにかかる。この場合、何らかの救済処置をとれないかと、今の話からヒントを得た。帯広市外から来られる方に向けても、会場までのルートをお知らせしなければならないと思う。

(藤田委員)

高校生との意見交換会の結果、今後何か考えがあるのか。

(木川会長)

5月11日にも緑陽高校生との意見交換会を開催した。高校生の活動はバスの運賃を200円上限にしてもらいたいということが主旨。高校生を対象としたアンケート調査の結果、バス賃が200円になれば、通学等でバスを利用するという行動になるという話を中心。しかし、実証実験を見ても、無料バス券を発行してもなか

なか利用されないという現状がある。

緑陽高校ではバスに関する取り組みとして、小学生を対象にバスを題材とした絵本の読み聞かせやバス停に貼る系統図の作成、校内購買局でのバス回数券の販売等を検討している。この先、高校生から直接協議会で説明をしていただく場面も考えられるが、授業等の関係から調整は難しいと思っている。意見交換会は継続していき、帯広運輸支局やバス事業者にも意見交換会に出席いただいて、高校生の思いを受け止めながら、協議会として取り組める事について検討していきたい。

(千葉委員)

目的があってバスに乗ると思うので、交通手段やワンコインチケットの事などを、折に触れて宣伝してもらえると事業効果が上がると思う。

(道見委員)

他の地域で公共交通の利用が増えている所があれば、情報を得て参考にしてみようか。

高校生の意見は1校だけではなく全体の高校に情報を伝えて意見交換を行い、自分たちが少しでも公共交通に手をかけたという気持ちにさせることが、新たに利用者を増やすことにつながる。小学生や高齢者に対しても、バスを学校に持ち込んでバスの中で授業を行うのも楽しくてよいのでは。

3. 閉会 (10 : 55)